

授業概要

本講義ではイスラム教の成立した7世紀から現代に至るまでのイスラム諸王朝の興亡と統治体制、さらには文化や思想などを網羅的に学ぶことを通じて、世界各地に拡大したイスラム社会の特徴について理解するための基礎的知見の獲得を目指す。近年では身近なものになりつつあるイスラム社会の歴史全体を大まかに把握することで、イスラムという宗教が社会的に大きな影響力を有した各地域における社会規範や文化的特徴がどのようなものであるのかについて理解を深める。そのため、講義においてはイスラム勃興期中東から北アフリカ・イベリア半島、さらには南アジアや中央アジアなど世界の様々な地域におけるイスラム社会の歴史・思想・文化について取り上げて講義を行う。

授業計画

第1回	イントロダクション、イスラムの勃興と正統カリフ時代
第2回	ウマイヤ朝による支配の拡大とアッバース朝の繁栄
第3回	イスラム思想の成熟とイスラム法学・文化の発展
第4回	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム諸王朝の興亡
第5回	イラン系・トルコ系諸民族の台頭
第6回	モンゴル帝国による世界帝国の成立とイスラム社会
第7回	ティームール朝の発展とイスラム神秘主義思想
第8回	オスマン朝の成立と拡大：統治体制と対外関係
第9回	サファヴィー朝とシーア派イスラム思想の発展
第10回	ムガル朝によるインド統治と社会的影響
第11回	ヨーロッパによる植民地支配の衝撃とイスラム社会の動揺
第12回	イスラム改革思想の広域的展開と社会改革運動
第13回	第一次世界大戦と戦間期：オスマン朝崩壊とパレスチナ問題、ヒラーファト運動
第14回	第二次世界大戦とイスラム世界の大変動：中東戦争とアラブ主義、印パ戦争
第15回	現代史のなかのイスラム世界：イラン革命から「アラブの春」
第16回	筆記試験

到達目標

- ①イスラム教の成立期から現代に到るまでのイスラム史全体の大まかな流れを把握する。
- ②各時代・地域におけるイスラムの政治・思想・文化の特色を理解する。
- ③イスラム関係史を学ぶことでイスラム社会を身近に捉え国際的視野に基づいた理解力を養う。

履修上の注意

高校時代に世界史を履修していた人は教科書の該当部分を確認しておくことで理解が容易になります。ただ、世界史を履修していなくても一から理解できるような講義を行いますので、前提となる知識は必要ありません。

予習復習

予習は必要ありませんが、授業中に毎回配布するプリントの内容を復習し、基礎的事項を確認・復習してください。

評価方法

授業期間中の小テスト・リアクションペーパーの提出など参加点（40%）、および学年末筆記試験（60%）にて評価します。

テキスト

教科書は使用せず、毎回プリントを配布します。

授業中に取り上げた事項についてさらに深く学ぶために必要な書籍などは適宜授業中に紹介します。